

キャラクター名 ユスティナ・ラハルー プレイヤー名 _____

種族	人間	種族特徴	剣の加護/運命変転		
生まれ	冒険者	性別	女性	年齢	16→17→18
冒険者Lv	15	経歴	歌を褒められたことがない		
経験点	1290		己に何らかの誓いを立てている		
		師と呼べる人物がいる			

技	9	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス	技能	Lv.	技能	Lv.
		器用度	7	9		25	4				
体	12	敏捷度	6	8		23 + 1	4	レンジャー	9		
		筋力	12	6		30	5	エンハンサー	7		
心	7	生命力	6	12		30	5	アルケミスト	3		
		知力	8	4		19	3	バトルダンサー	15		
		精神力	9	2		18	3				

戦闘特技				言語			会話	読文
	p	斬り返し	1-286p	交易共通語		○	○	
バトルマスター	3143p	変幻自在	1-282p	魔動機文明語		○	○	
治癒適性	2122p	武器の達人	3-212p					
不屈	2123p							
ポーションマスター	2123p							
武器習熟A/フレイル	1-281p							
必殺攻撃	1-288p							
なぎ払い	1-288p							
頑強	1-279p							
回避行動	1-279p							
武器習熟S/フレイル	1-281p							

練技/呪歌/騎芸/賦術		
キャッツアイ		
ガゼルフット		
アンチボディ		
メディテーション		
ケンタウロスレッグ		
デーモンフィンガー		
リカバリィ		
クリティカルレイ		
ヴォーパルウェポン		
パラライズミスト		

技能	基本	基本	基本	基本追加
	レベル	命中力	回避力	ダメージ
ファイター	0			
グラップラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾		必要	
鎧	コンバットメイドスーツ	ランク	筋力
盾		回避力	防護点
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)		2	
回避技能	バトルダンサー	合計値	22
			0

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
モール	2H	20	1	2d+ 20	12	20	35										
バランストペンデュラム	2H	25	2	2d+ 21	9	24	45										
ブレードスカー				2d+ 19		20											
ナイフ	1H投	1		2d+ 19	10	20	1										
ダイナスト	2H	40		2d+ 19	10	23	90										
カードシューター	1H			2d+ 0		0											
				2d+													
				2d+													

制限移動	通常移動	全力移動	回避	防護点	HP
3	26	78	2d+ 22	0	92
魔物知識/弱点	先制力	生命抵抗	精神抵抗	MP	
2d+ 0/X	2d+ 7	2d+ 20	2d+ 20	20	

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力

装備品	説明
頭 ディスプレイサー・ガジェット	装備部位「その他」を得る
耳 ラル=ヴェイネの金鎖	装備部位「その他」を得る
顔 受益者のシンボル	メデュ製作・龍のキーホルダー
首 奇跡の首飾り	生死判定を1回やりなおせる・使用で壊れる
背中 野伏のサーマルマント	炎と水・氷属性のダメージ-1
右手 大きな手袋	右手左手でセット
腰 多機能グリーンベルト	装備者を自然環境にあるものとする
足 立ち寝のレギンス	睡眠や気絶で転倒しない
その他正しき信念のリング	精神抵抗力+2

装備品	説明
ウェポンホルダー改	武器や盾を2つまで保持できる
左手 大きな手袋	必要筋力を5超過する武器・盾を持てる
スマルティエの武道帯	リカバリィ回復量に生命B追加
ブレードスカー	回避達成値が目標より4以上上回った場合x10ダメージ

その他メモ	自動失敗
ユスティナはこれまで歌や踊った事はあまりない。いつも優しい父が、何故かその時だけは静かに悲しい顔をするからだ。しかし隠れ里と妹を救った冒険を父に聞かせた所、彼は意を決し提案する。『お前に亡き母の舞いを教えよう』かくしてこれまで培ってきた我流の戦闘法は、父により戦舞へと洗練されていく。まるでそれが本来の体の動かし方とばかりに、教えられた舞踏は驚くほどユスティナに馴染んだ。	チェック
	□□□□⑤
	□□□□⑩
	□□□□⑮
	□□□□⑳
	□□□□㉑
	□□□□㉒
	□□□□㉓
	□□□□㉔
	□□□□㉕

新たな冒険の日、旅立つ彼女に父は言う。
力を振るうならその意味を考えなさい、と。
顔きつつも、その言葉の真意をユスティナは聞けなかった。
不思議と、その答えは自分で見つけなければいけない気がして。

